

## ボウズハゼ *Sicyopterus japonicus* (Tanaka)

### 【選定理由】

愛知県内において生息は確認されているが、生息に適した環境および個体数が減少傾向にあると推察される。

### 【形態】

体長約 15cm。吻端より頭部にかけて丸く突出し、口は腹面に開く。上唇側面の中央付近に切れ込みがある。背鰭は 2 基で、オスの第一背鰭は伸長する。腹鰭は吸盤状。体の色は緑色を帯びた黄褐色で、十数本の暗色横帯があり、体中央部では V 字状になる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

矢作川水系、豊川水系、渥美半島。

#### 【国内の分布】

福島県から琉球列島。

#### 【世界の分布】

日本、台湾。

### 【生息地の環境／生態的特性】

一般的には流程の短い河川中・上流域に生息する。石の表面の付着藻類を独特の形状の口器を使って削り取るようにして食べる。産卵期は夏で、石の裏に卵を産みつけ、孵化するまで雄が保護をする。卵は他のハゼ類に比べて非常に小さく 0.4mm 程度で、産み付けられる一卵塊の数は多いもので 20 万粒を超える (Yamasaki et al., 2011)。孵化後の仔魚はただちに海に流下し、海域で全長 25～30mm ほどに成長した後、翌年の春に河川へと遡上する。河川内では、縄張りを持つほか、同じ付着藻類食のアユと競争することもある。和歌山県太田川では 7 歳の個体が確認されている (Iida et al., 2013)。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

矢作川水系、豊川水系、渥美半島では確認されているがその数は多くなく、産卵についても未確認である。主な減少要因としては、生息地の消失や改変が挙げられる。ボウズハゼは付着藻類を専食することから、河川の富栄養化や河川改修の際に発生するシルトの堆積は致命的な問題といえる。また、河川の流量変化、流下する土砂の減少等による河川内の環境変化も、長期的に見た場合、減少要因となりうる。

### 【保全上の留意点】

海と川を行き来する両側回遊魚であるため、移動の妨げとなる河川内に設置された堰や落差工などの横断工作物には魚道の設置が望ましい。また、採餌場所や産卵場所として、浮石の多い瀬を必要とするため、様々な大きさを取り混ぜた石礫の設置等の配慮が必要である。ただし、人工的に配置した石や隠れ場所は、その機能を維持するために定期的なメンテナンスを計画段階から想定することが重要である。両側回遊魚、藻類食、小卵など繁殖・育成面に課題が多いため、生息域外保全は現段階において不可能に近い。

### 【特記事項】

ボウズハゼの名前の由来は、「藻類を食べることを精進料理に例えて」、「丸い頭部が坊主頭を連想させる」等にちなむと言われている。

### 【引用文献】

- Yamasaki, N., M. Kondo, K. Maeda, K. Tachihara, 2011. Reproductive biology of three amphidromous gobies, *Sicyopterus japonicus*, *Awaous melanocephalus*, and *Stenogobius* sp., on Okinawa Island. *Cybium*, 35: 345-359.
- Iida, M., S. Watanabe, K. Tsukamoto, 2013. Riverine life history of the amphidromous goby *Sicyopterus japonicus* (Gobiidae: Sicydiinae) in the Ota River, Wakayama, Japan. *Env Biol Fishes*, 96: 645-660.

### 【関連文献】

- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏, 2013. ハゼ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定 第三版, pp.1361-1541, 2114-2166. 東海大学出版会, 神奈川.
- 福井正二郎, 2001. ボウズハゼ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編), 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 第三版, pp.638-641. 山と溪谷社, 東京.

(地村佳純)